

救急豆知識

家庭で出来る応急手当

～ヘビ、ハチに よるけが～

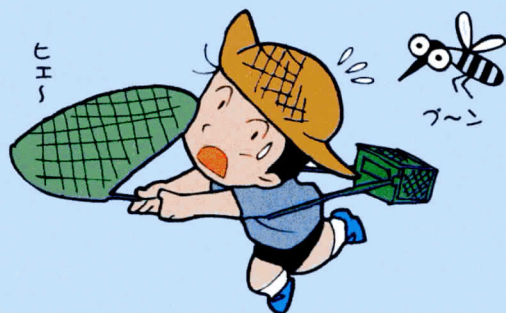
※ 蛇にかまれた場合

日本国内の毒蛇は、マムシとヤマカガシ（本土のみ）、ハブ（鹿児島県とから列島の一部、奄美群島、沖縄）の3種類です。

マムシとハブは頭部が三角形の形をしており、かまれると激痛がして赤くはれてきます。また、蛇の毒牙により、太い針で刺したような平行な2個の傷（牙痕）がみられます。この牙痕と激痛及びはれがある場合は、毒蛇による咬傷の可能性が非常に高いので、直ちに医師の診察を受けて下さい。

また、ヤマカガシは以前、無毒といわれていましたが、上あごの奥に毒牙があり、現在では毒蛇とされています。ヤマカガシの場合、牙痕は不明瞭であり、症状も強くなく、しかもかまれてから5～7時間後に症状が出現してきます。この場合も医師の診察を受けるべきです。

蛇にかまれたときは、あわてずにタオルなどでかまれたところよりも心臓に近いところを軽く縛り、安静にしてかまれた部分を、氷をビニール袋に入れ冷却し救急車を呼んで医師の診察を受けましょう。



毒蛇にかまれたときの手当て



※ ハチに刺された場合

ハチ毒の多くは蟻酸といって酸性です。（ミツバチは異なります）このためハチに刺された場合はハチの針を抜いて、刺されたところをよく消毒します。

ハチ刺傷でもっとも怖いのはアナフィラキシーショックです。アナフィラキシーショックはハチ毒に対する抗体ができて、その人が2回目以降にハチに刺されると起こり得ます。アナフィラキシーショックはハチに刺されてから数分以内に起き、その症状は、全身が赤くなり（皮膚紅潮）呼吸困難等を訴えます。血圧も下がり放置すると死亡することがありますので、すぐに救急車を呼んで医師の診察を受けて下さい。

